敬天愛人 一幅

【所 在 地】鹿児島市上竜尾町 西郷南洲顕彰館(南洲神社所有)

【種別】県指定有形文化財(書跡)

【指定年月日】昭和42年3月31日



西郷隆盛は、「敬天愛人」を好んで書き、現存するものも多い。中でも南洲神社に伝わったものは、特に優れたものとされている。これは、明治8(1875)年に私学校生らの求めに応じて書かれたもので、その後長く四方学舎の道場に掲げられており、戦後になって四方学舎が南洲神社に移った際、同神社に入ったものである。その後、鹿児島市立美術館に展示されていたが、美術館の改築に伴って、西郷南洲顕彰館に展示されることとなった。

文字は規格雄大で,小節にこだわらず,広大無辺の感があり,行書・草書を混在させて字画の多少からくるアンバランスを巧みに調整し,その筆致は豪快にして謹厳,一点一画に満身の気魄がみなぎっている。印は,明治5(1872)年以来使用してきたものであるが,この場合は恐らく後印(後世押印されたもの)であろう。

料紙は白唐紙又は桑本紙で,縦 60cm,横 120cm。濃紺布地表装の軸仕立てになっているが,もとは額装であったらしい。体裁の大きさは縦・横とも 135cm である。